

# 静岡県磐田市における学齢期からの生活習慣病予防に関する疫学研究 Iwata Kids Health study

## 研究の背景

成人期以降に発症する循環器疾患・代謝疾患・骨粗鬆症などの生活習慣病に対して小児期から予防プログラムを行う理論的根拠は、これらの疾患の起源が人生の早い時期に存在する事と、成人の行動様式が幼年期に形成される事の2点です。このことから米国では1970年代半ばに、アメリカ健康財団が Know Your Body という包括的な学校健康増進プログラムを開発しました。我が国では1990年に静岡県磐田市が全国に先駆けて、「小児成人病予防」という名称で健診事業や事後措置を始めました。その後、「小児生活習慣病予防」という名称に変更されて、同様の健診事業は「小児生活習慣病予防健診」という名称で全国各地に広まりました。

## 研究の目的・方法

Iwata Kids Health study（正式名称：静岡県磐田市における学齢期からの生活習慣病予防に関する疫学研究、研究責任者:近畿大学・医学部・甲田勝康）は、この事業で得られた同健診や生活習慣調査のデータを解析し、小児の血清脂質、血圧、肥満、生活習慣に関する事項について研究すると共に、学齢期における生活習慣病予防対策事業のあり方について検討することです。

## 研究の対象と研究に用いる情報

対象は、1990年以降の同市小児生活習慣病予防健診を受けた市内小学校の児童および中学校の生徒で、検討項目は、小児生活習慣病予防健診結果（身長、体重、血圧、血清コレステロール値、既往歴、家族歴等）や生活習慣調査（アンケート）結果です。これらの情報について2029年3月31日まで研究利用します。

## 個人情報と研究利用の拒否

1990年から2001年のデータについては、対象者の個人名が含まれていますが、データは近畿大学・医学部において厳重に保管し、個人情報除かれた後に解析され、研究結果は公開されています。情報が当該研究に用いられることについてご本人もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でもご本人に不利益が生じることはありません。

またご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

## 連絡先

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

近畿大学医学部公衆衛生学教室

TEL 072-366-0221（内線 3272）

FAX 072-367-8262

研究責任者：甲田勝康

## 研究論文 (抜粋)

Fujita Y, Kouda K, Nakamura H, Nishio N, Takeuchi H, Iki M. Growth-related disappearance of the childhood relationship between height and blood pressure levels. *Ann Hum Biol.* 2014; 41: 91-93

Fujita Y, Kouda K, Nakamura H, Nishio N, Takeuchi H, Iki M. Height-specific serum cholesterol levels in pubertal children: data from population-based Japanese school screening. *J Epidemiol.* 2011; 21: 102-107

Fujita Y, Kouda K, Nakamura H, Nishio N, Takeuchi H, Iki M. Relationship between height and blood pressure in Japanese schoolchildren. *Pediatr Int.* 2010; 52: 689-693

Kouda K, Nakamura H, Nishio N, Fujita Y, Takeuchi H, Iki M. Trends in body mass index, blood pressure, and serum lipids in Japanese children: Iwata population-based annual screening (1993-2008). *J Epidemiol.* 2010; 20: 212-218

Kouda K, Nakamura H, Tokunaga R, Takeuchi H. Trends in levels of cholesterol in Japanese children from 1993 through 2001. *J Epidemiol.* 2004; 14: 78-82